

みどり市景観講演会 講師プロフィール



西村 浩(にしむら ひろし)

建築家／クリエイティブデザイナー

1967 年 佐賀市生まれ

東京大学工学部土木工学学科 卒業

東京大学院工学系研究科修士課程 修了

【経歴】

1999 年 ワークビジョンズ一級建築士事務所 設立(東京都品川区)

2014 年 佐賀オフィス「COTOCO215」を構える

2014 年 群馬県景観審議会委員 (～2016 年)

2020 年 ベーグル専門店「MOMs'Bagel」の事業主になる。

⇒マイクロデベロッパーとして、「まち」と「そこで暮らす人々」の豊かで楽しいまちづくりを実践。

【主な受賞施設】

北海道岩見沢市の「岩見沢複合駅舎」

⇒2009 年度グッドデザイン賞大賞、土木学会デザイン賞、BCS 賞、ブルネル賞、アルカシア建築賞、公共建築賞

(近年)

■2021 グッドデザイン賞

「鹿児島世界文化遺産オリエンテーションセンター」

「福島県石川町文教複合施設モトガッコ」

■都市景観大賞特別賞

「糸魚川駅北地区」

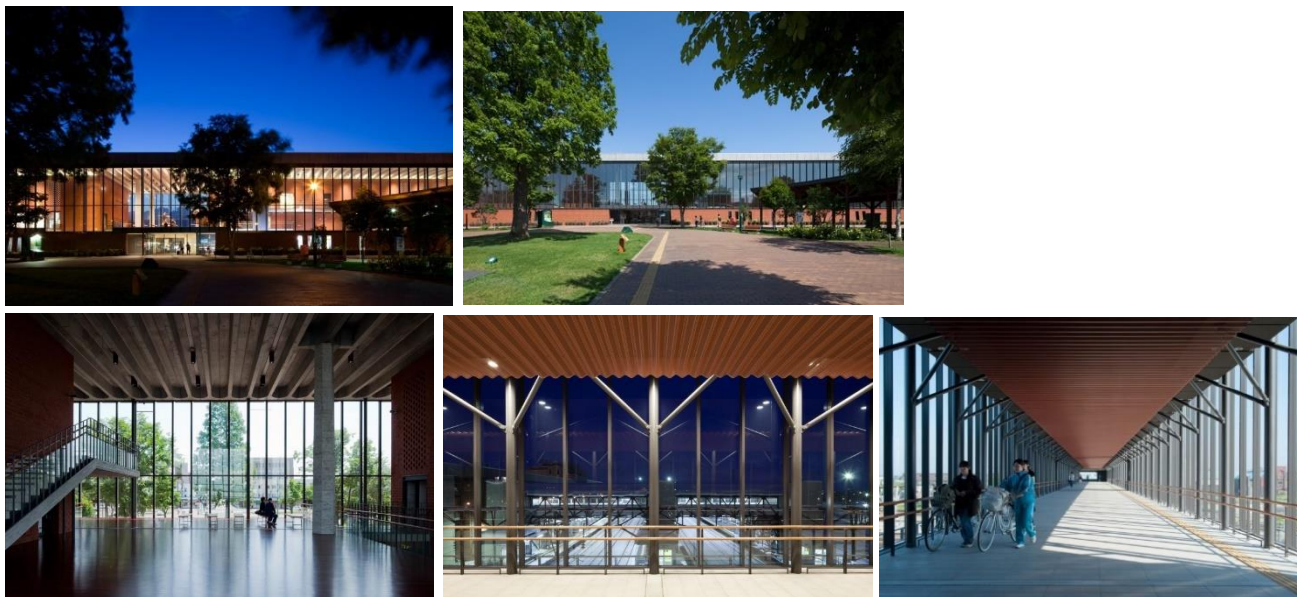
■土地活用モデル大賞国土交通大臣賞

「佐賀市呉服元町ストリートマーケット」

■日本空間デザイン賞 2021 の最高賞 KUKAN OF THE YEAR

「神水公衆浴場(熊本県)」(くわみずこうしゅうよくじょう)

■岩見沢複合駅舎



この作品は、市民を巻き込んだ「駅から始まるまちづくり」を、「もの」としての建築と、「こと」としての建設過程の市民協働プロジェクトを通して実現し、市民の熱い思いに応えたまれな例である。

この建物にはまちの歴史を未来に伝える素材として、赤れんがと古レールが用いられている。基壇となる一階部分は、人々の名前と出身地が刻印された赤れんがの長大な壁である。その上に古レールのマリオンによるガラスの箱が載り、さらにその中にある赤れんがの箱との隙間がコンコースやギャラリーなどの、市民が自由に憩える、まちに開かれた空間となっている。それらの巨大な空間をプレキャストコンクリートの連続する梁が覆っている。

本作品は市民の大きな期待に正面から挑み、これを実現し、「デザインはまちを変える」ことを示したもので、その完成度とともに完成までの過程も含め、あらためて設計とは何か、建築に何ができるかを問いかける作品である。

■福島県石川町文教複合施設モトガッコ



小学校が公民館・図書館・屋内遊び場・地域の交流スペースを備えた複合施設に生まれ変わった施設。コンセプトは、「集い」・「遊び」・「学ぶ」。

■神水公衆浴場



開業した黒岩裕樹さんは、熊本地震の住宅取壊しで住民が次々と減っていく際に、地元神水の賑わいが失われていると感じ、何とか人が集まる「場」を作りたいと思ったのがきっかけで、自宅の1階を銭湯にして町のために開放した建物。

■COTOCO215



佐賀の街なかの日常的な賑わいを取り戻したいという思いから生まれた企画で、仲間とともに一緒に楽しく働きながら、新しいアイデアやビジネスが育まれ、次々と新しい価値が発信されていく、シェアードワークプレイス。

いろんな人との出会いを通じた、たくさんの新しい発見がある。そして、クリエイティブに働く人と集まる人がコラボレーションして、一緒に佐賀の街を育てていく起点となる場所でもある。